「出す」の意味構造に関する実験的研究：日本語学習辞典の開発のために

森山新（お茶の水女子大学大学院）
moriyama.shin@ocha.ac.jp

1. 研究の目的

本研究は日本語学習者や日本語教師の語彙習得に役立つ日本語学習辞典を開発することを念頭におき、基本語彙であり、かつ多義性の高い「出す」の意味構造がどのようなものであるか、実験的に明らかにしようとするものである。

『大辞林第二版』（三省堂）によると、以下のように「出す」には複合動詞の用法を除いても 27 の用法、73 の例文が列挙されている。この『大辞林第二版』の辞書記述では、現代語の使用頻度が考慮され、現代語における一般的な語義から特殊な語義へと配列され、記述されている（初版の序）。とは言うものの、語義をどのようにまとめ、いくつにするかという点については執筆者の内省に委ねられている面がある。したがって日本語母語話者全体のカテゴリー化を正しく反映していない可能性が残っている。

本研究では、実験手法を用いつつ、「出す」のプロトタイプ、意味カテゴリー構造などをできるだけ実証的に明らかにする。

だす 【出す】（動サ五［四］）
補足説明「いだす」の転。中世頃から用いられた
(1) 中にあったものを外へ、または、人に見える所に、移す。⇔入れる
「冷蔵庫から牛乳を–・す」「かばんから書類を–・す」「ゴミを家の前に–・す」「うみを–・す」「銀行へ行ってお金を–・して来る」
(2) 外の方へ出っぱらせる。突き出す。⇔引っ込める
「脈をみますから左手を–・してください」「窓から顔を–・す」「庇（ひさし）を深く–・す」
(3) 人に見える場所に設置・掲示・展示する。⇔引っ込める
「へいに掲示を–・す」「見本をウインドーに–・す」「看板を表に–・す」
(4) おおわれていた物を露出させる。⇔隠す
「白い歯を–・して笑う」「真相を明るみに–・す」「木が芽を–・す」
(5) 世の中に広く発表する。
「同人誌を–・す」「新製品を–・す」「広告を–・す」「一〇〇万円寄付しますが、私の名前は–・さないでください」
(6) 乗り物を出発、または運行させる。
「臨時列車を–・す」「迎えの車を–・す」「波が高いので船を–・すことができない」
(7) 店舗をある場所に設ける。
「駅前に店を–・す」
(8) 人や動物を内側から外へ、またはよく見える所に、移す。⇔入れる
「子供を外へ–・す」「犬を庭に–・す」
(9) 人をいつもいる場所から、離れた所へ行かせる。
「息子を東京へ–・してやる」
(10) 自分の子供を、他の家族の一員となるよう家族から離れさせる。送り出す。
「娘を嫁に–・す」「息子を奉公に–・す」
(11) 学校を卒業させる。
「大学まで–・した」
(12) 人々を接待するところに仕事に行かせる。
「娘を店に–・す」「若い子をお座敷に–・す」
(13) 多くの人々が見たり聞いたりするものに登場させる。
「子供をピアノの発表会に–・す」「社員をテレビに–・す」「絵を展覧会に–・す」
(14) 人の前に連れて来る。

「『社長を－・せ』とわめいている」「責任者を電話口に－・してください」
(15)客などに、飲食物や金品を供する。与える。
「来客にお茶を－・す」「客におしぼりを－・す」「社員にボーナスを－・す」
(16)金を支払う。
(ア)代金を支払う。
「一万円－・して買ったネクタイ」「学資を親に－・してもらう」
(イ)ある事業のための費用を負担する。出資する。拠出する。
「会社設立の資金を－・す」「みんなで金を－・す」
(17)物をしかるべき所に渡す。差し出す。提出する。
「スーツをクリーニングに－・す」「入学願書を－・す」「答案を－・す」
(18)手紙・小包などを発信・発送する。
「恩師に手紙を－・す」
(19)活字になったものや話などの中に登場させる。
「家庭内のことを職場で話題に－・す」
(20)ある集団が役員を選出する。また、ある場所が、結果として、世の中で活躍している人を生みだす。
「本県からは総理大臣を二人－・している」「クラスごとに PTA の役員を－・してください」
(21)論理の結論や根拠を明らかにして提示する。
「まだ結論を－・すには早すぎる」「この問題に明確な答えを－・すのはむずかしい」「各自、意見を－・してください」「そんなことを言うなら証拠を－・せ」
(22)感情を表面に表す。
「彼女はすぐに感情を顔に－・す」「不満を口に－・す」
(23)内に秘められている能力を発揮する。
「さあ、元気を－・して」「あまりスピードを－・すな」「もっと大きな声を－・しなさい」
(24)体内にある液体をそとにあふれ出させる。
「涙を－・す」「汗を－・す」
(25)ある現象や事態を発生させる。結果としてそうなる場合にもいう。
「火事を－・す」「熱を－・す」「赤字を－・す」「一〇人の怪我人を－・した事故」「余りを－・す」「新記録を－・した K 選手」「このピアノはいい音を－・す」
(26)それらしい雰囲気や特徴が表れるようにする。
「もっと感じを－・して台詞(せりふ)を言ってください」
(27)命令・依頼などの指示・働きかけを行う。⇔取り消す
「問屋に注文を－・す」「生徒に宿題を－・す」「部下に指示を－・す」「気象台が大雨警報を－・す」「部長がこの企画にゴーサインを－・した」
(28) (動詞の連用形の下に付いて)
(ア)…し始める意を表す。
「車が動き－・す」「雨が降り－・す」
(イ)外へ移動するよう、または外へ現れるようにする。
「道路へとび－・す」「外へはみ－・す」「姿を照らし－・す」

2. 先行研究

本研究のように、意味カテゴリー構造を実験的手法で分析した研究には今井(1993)や森山 (2008) などがある。今井では英語の動詞 wear の意味構造を、本稿と同じようなカード分類と多次元尺度解析によって実験的に明らかにしている。森山では日本語の格助詞ヲ、ニ、デの意味構造を、やはりカード分類と多次元尺度解析により明らかにしている。

「出す」の意味構造を分析した研究はいくつかあるが、このうち白 (2010) は認知言語学的観点から「出す」の意味構造について分析している。しかしながら内省により分析が行われており、実験的検証はなされていない。

以上より、本稿では「出す」の意味構造について、カード分類を行い、非計量的多次元尺度解析という手法を用いて実験的に明らかにしたい。

3. 研究方法

日本語母語話者を被験者に、以下のような実験と分析を行う。

①意味カテゴリー構造の分析：まず日本語母語話者を被験者にして『大辞林第二版』に掲載されている 73 の例文をグループ分け（カテゴリー分け）してもらい、得られたデータをもとに類似性行列を作成し、「非計量的多次元尺度解析」で分析し、不特定多数の一般の日本語母語話者が「出す」の様々な用法をどのようにカテゴリー化しているか実験的に明らかにする。「非計量的多次元尺度解析」とは何らかの類似性のデータに基づいて、項目間のつながりを多次元空間内の距離の遠近によって示す手法で、多義語の複雑な意味構造を数量的尺度によって捉えやすく表示できる。そのため、語の意味構造を客観的に探り出すのに適しており、上述のように今井（1993）や、森山（2008）など、認知言語学的な観点に基づいた多義語研究においてよく用いられている。実験で用いた 73 の例文は以下のとおりである。

[1]100 万円寄付しますが私の名前は出さないでください。
[2]10 人の怪我人を出した事故。
[3]『社長を出せ』とわめいている。
[4]あまりスピードを出すな。
[5]うみを出す。
[6]かばんから書類を出す。
[7]このピアノはいい音を出す。
[8]この問題に明確な答えを出すのはむずかしい。
[9]さあ、元気を出して。
[10]そんなことを言うなら証拠を出せ。
[11]ひさしを深く出す。
[12]へいに掲示を出す。
[13]まだ結論を出すには早すぎる。
[14]みんなで金を出す。
[15]もっと感じを出して台詞(せりふ)を言ってください。
[16]もっと大きな声を出しなさい。
[17]クラスごとに PTA の役員を出してください。
[18]ゴミを家の前に出す。
[19]スーツをクリーニングに出す。
[20]一万円出して買ったネクタイ。
[21]駅前に店を出す。
[22]恩師に手紙を出す。
[23]家庭内のことを職場で話題に出す。
[24]火事を出す。
[25]会社設立の資金を出す。
[26]絵を展覧会に出す。
[27]各自、意見を出してください。
[28]学資を親に出してもらう。
[29]汗を出す。
[30]看板を表に出す。
[31]気象台が大雨警報を出す。
[32]客におしぼりを出す。
[33]銀行へ行ってお金を出して来る。
[34]迎えの車を出す。
[35]犬を庭に出す。
[36]見本をウインドーに出す。
[37]広告を出す。

[38]子供をピアノの発表会に出す。
[39]子供を外へ出す。
[40]社員にボーナスを出す。
[41]社員をテレビに出す。
[42]若い子をお座敷に出す。
[43]新記録を出した K 選手。
[44]新製品を出す。
[45]真相を明るみに出す。
[46]生徒に宿題を出す。
[47]責任者を電話口に出してください。
[48]赤字を出す。
[49]窓から顔を出す。
[50]息子を東京へ出してやる。
[51]息子を奉公に出す。
[52]大学まで出した。
[53]答案を出す。
[54]同人誌を出す。
[55]入学願書を出す。
[56]熱を出す。
[57]波が高いので船を出すことができない。
[58]白い歯を出して笑う。
[59]彼女はすぐに感情を顔に出す。
[60]不満を口に出す。
[61]部下に指示を出す。
[62]部長がこの企画にゴーサインを出した。
[63]本県からは総理大臣を二人出している。
[64]脈をみますから左手を出してください。
[65]娘を嫁に出す。
[66]娘を店に出す。
[67]木が芽を出す。
[68]問屋に注文を出す。
[69]余りを出す。
[70]来客にお茶を出す。
[71]臨時列車を出す。
[72]涙を出す。
[73]冷蔵庫から牛乳を出す。

②プロトタイプの認定：①で日本語母語話者が分けたグループの中で最もプロトタイプだと思われる用法のグループはどれか、日本語母語話者自身に判断してもらうことで、プロトタイプを認定する。
③以上により明らかになった結果を『大辞林第二版』の記述と比較することで、大辞林の意味記述の妥当性を確認すると同時に、日本語学習辞典を編纂する際にどのように「出す」の意味を記述すべきなのか考察する。

4. 結果と考察

4.1 意味カテゴリー構造

まず、73 枚のそれぞれのカードが他のカードと同じグループに分けられたかどうかをカウントする。意味的に近い用法であるほど、同じカテゴリーに分ける可能性が高まる。例えば、20 名中 19 名が同じグループにした 2 枚のカードがあるとすれば、その 2 枚は非常に似た意味で用いられていることになる。これに対し、20 名中 1 名しか同じグループにしていない 2 枚のカードは互いに異なった意味で用いられているということになる。この

ようなことから、73 枚のそれぞれのカードが残りの 72 枚のカードと同じグループに分けられているかをカウントし、以下の表１のような 73×72／2 の表を作成する。行、列に書かれている番号 1～20 はカードの種類を番号で表している。本来は 73 枚あるため、73 番まであるが、本稿ではスペースの関係で 20 までを掲載した。例えば、１行目４列目は「４」と書かれているが、これはカード[1]（100 万円寄付しますが私の名前は出さないでください。）とカード[4]（あまりスピードを出すな。）とを同じグループにした人が４名いたことを示している。右上は意味的に近いカードほど数字が大きくなっている。意味的に近いものほど数字が小さい方がわかりやすいことから、右上の数字を 20（被験者数）から引いた数字が左下に書かれている。たとえば、4 行目 1 列目には 16 と書かれているが、これは先ほどの 1 のカードと 4 のカードを同じグループにしなかった人が 16 名いたということを示している。こうすることで全員が同じグループに分ければ意味が同じということになり 0、全員が同じグループに分けなければ意味が完全に異なるということで 20 となり、数字の大きさが両者の距離を表すようになる。この左下の数字を用いて SPSS（Ver.18）にかけ「非計量的多次元尺度解析」を行った。

表１

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
1		2	2	4	1	0	3	4	4	6	0	2	3	0	3	3	2	0	1	1
2	18		0	4	3	1	3	3	3	2	1	2	3	1	3	3	2	1	1	2
3	18	20		1	3	4	1	1	4	1	1	4	1	1	1	0	6	4	2	1
4	16	16	19		1	0	8	4	10	3	0	1	3	1	8	9	3	0	0	2
5	19	17	17	19		10	0	1	1	3	4	3	1	1	0	2	1	7	3	1
6	20	19	16	20	10		0	0	0	3	7	6	0	4	0	2	1	12	7	4
7	17	17	19	12	20	20		4	12	3	0	1	4	1	12	15	2	0	0	1
8	16	17	19	16	19	20	16		4	8	0	1	18	0	3	2	1	1	0	1
9	16	17	16	10	19	20	8	16		3	0	1	3	1	15	12	2	0	0	1
10	14	18	19	17	17	17	17	12	17		1	1	7	2	2	2	1	4	1	1
11	20	19	19	20	16	13	20	20	20	19		3	0	2	1	1	1	5	4	2
12	18	18	16	19	17	14	19	19	19	19	17		1	3	1	2	2	8	4	4
13	17	17	19	17	19	20	16	2	17	13	20	19		0	2	2	1	1	0	1
14	20	19	19	19	19	16	19	20	19	18	18	17	20		0	2	2	6	5	15
15	17	17	19	12	20	20	8	17	5	18	19	19	18	20		11	1	0	0	1
16	17	17	20	11	18	18	5	18	8	18	19	18	18	18	9		2	2	2	2
17	18	18	14	17	19	19	18	19	18	19	19	18	19	18	19	18		1	1	2
18	20	19	16	20	13	8	20	19	20	16	15	12	19	14	20	18	19		10	6
19	19	19	18	20	17	13	20	20	20	19	16	16	20	15	20	18	19	10		6
20	19	18	19	18	19	16	19	19	19	19	18	16	19	5	19	18	18	14	14	

注）右上が同じグループに分けた人数、左下が同じグループに分けなかった人数（20 から同じグループに分けた人数を引いた数）を表している。

図１が解析結果である（見やすい２次元のものを掲載した）。これを見ると大まかにではあるが、「出す」により移動する物が「具体物」であるものが左、「抽象物」であるものが右に集まっている。具体物では、「物やお金」が上、「人や動物、乗り物」が下になっている。また「内から外への具体的移動を伴うもの」が左、「移動を伴わない表出、創出」が右に集まっている（これは白（執筆中）の主張とも合致している）。しかしそれ以上、図１から辞書記述に関するカテゴリーを導き出すことは困難なようである。カテゴリー分けが十分行われなかった原因としては、カードが 73 枚と多かった割に、被験者が 20 人と少なかったことがあげられよう。

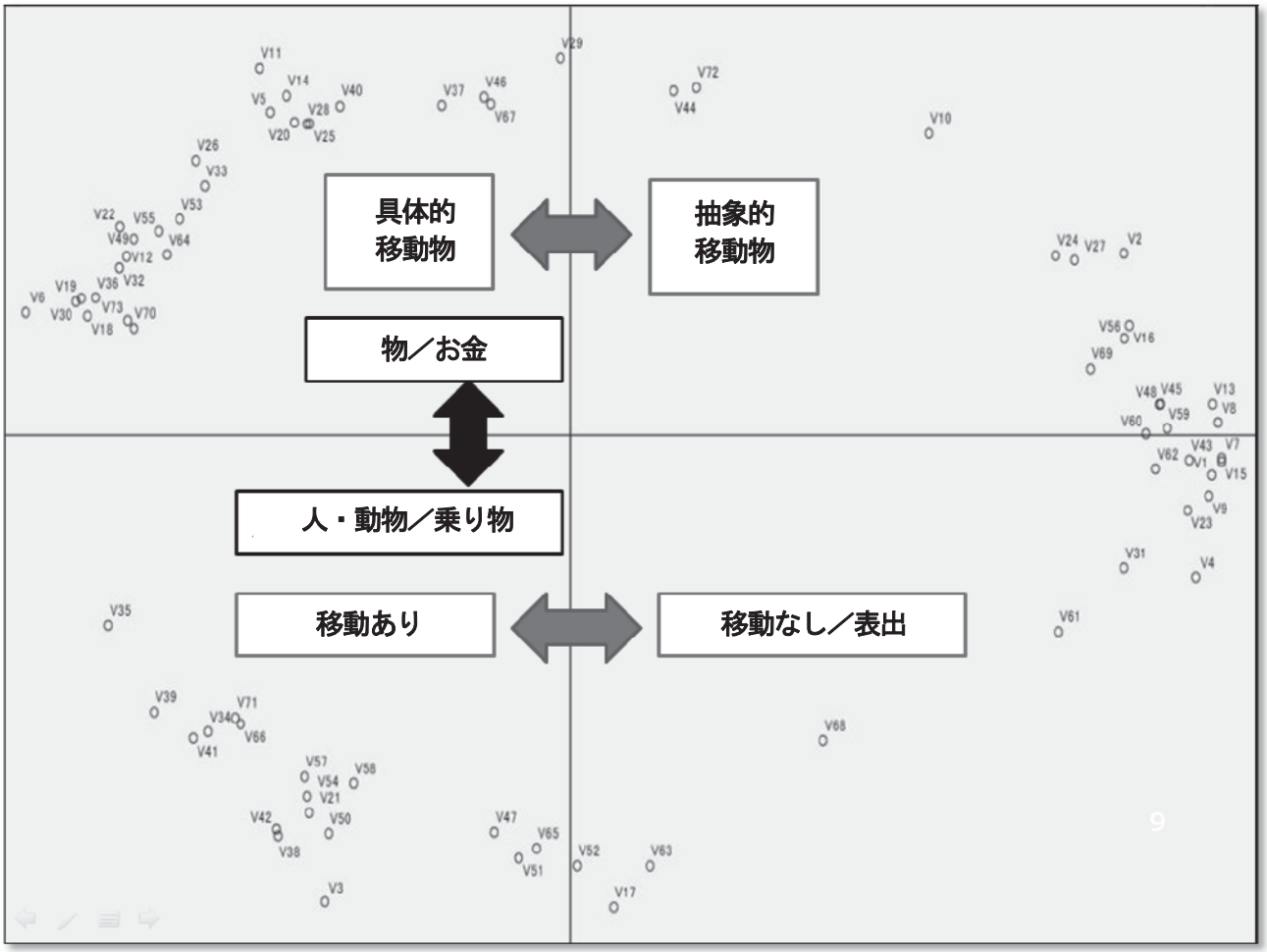

図１　「出す」の非計量的多次元尺度解析の結果

そこで『大辞林』の 27 のカテゴリーのまとまりがグラフ上で１つのまとまりをなしているかという点から改めて図１を見てみることにする。以下、27 個のカテゴリーの例文がいくつのまとまりになっているかを示してみた。例えばカテゴリー【１】は[73][6][18]がまとまりをなしているが、[5]、[33]はそれから離れた位置にあり、合計で①、②、③の３つのカテゴリーに分裂している。そのように考えていくと、以下に示すように、27 のカテゴリーの中で１つのカテゴリーとしてまとまっているのは 19 個（【3】、【6】～【12】、【14】、【16】～【22】、【24】～【26】）で、残りの８個については、カテゴリー【2】、【13】、【15】、【23】、【27】は２つ、【1】、【4】は３つ、【5】は４つに分裂しており、『大辞林』のカテゴリー区分とは一致していない部分があった。

だす　【出す】（★印は、中心義と判定した人数が 40%を越えたものである）

【1】中にあったものを外へ、または、人に見える所に、移す。

①★[73]冷蔵庫から牛乳を出す ★[6]かばんから書類を出す ★[18]ゴミを家の前に出す
②[5]うみを出す
③[33]銀行へ行ってお金を出して来る

【2】外の方へ出っぱらせる。突き出す。

①[64]脈をみますから左手を出してください ★[49]窓から顔を出す
②[11]庇を深く出す

【3】人に見える場所に設置掲示展示する。

①[12]へいに掲示を出す [36]見本をウインドーに出す [30]看板を表に出す

【4】おおわれていた物を露出させる。
①[58]白い歯を出して笑う
②[45]真相を明るみに出す
③[67]木が芽を出す

【5】世の中に広く発表する。
①[54]同人誌を出す
②[44]新製品を出す
③[37]広告を出す
④[1]私の名前は出さないでください

【6】乗り物を出発、または運行させる。
①[71]臨時列車を出す [34]迎えの車を出す [57]波が高いので船を出すことができない

【7】店舗をある場所に設ける。
①[21]駅前に店を出す

【8】人や動物を内側から外へ、またはよく見える所に、移す。
①★[39]子供を外へ出す ★[35]犬を庭に出す

【9】人をいつもいる場所から、離れた所へ行かせる。
①[50]息子を東京へ出してやる

【10】自分の子供を、他の家族の一員となるよう家族から離れさせる。送り出す。
①[65]娘を嫁に出す [51]息子を奉公に出す

【11】学校を卒業させる。
①[52]大学まで出した

【12】人々を接待するところに仕事に行かせる。
①[66]娘を店に出す [42]若い子をお座敷に出す

【13】多くの人々が見たり聞いたりするものに登場させる。
①[38]子供をピアノの発表会に出す [41]社員をテレビに出す
②[26]絵を展覧会に出す

【14】人の前に連れて来る。
①[3]『社長を出せ』とわめいている [47]責任者を電話口に出してください

【15】客などに、飲食物や金品を供する。与える。
①[70]来客にお茶を出す [32]客におしぼりを出す
②[40]社員にボーナスを出す

【16】金を支払う。
①[20]一万円出して買ったネクタイ [28]学資を親に出してもらう [25]会社設立の資金を出す [14]みんなで金を出す

【17】物をしかるべき所に渡す。差し出す。提出する。

①[19]スーツをクリーニングに出す [55]入学願書を出す [53]答案を出す

【18】手紙小包などを発信発送する。

①[22]恩師に手紙を出す

【19】活字になったものや話などの中に登場させる。

①[23]家庭内のことを職場で話題に出す

【20】ある集団が役員を選出する。また、ある場所が結果として世の中で活躍している人を生みだす。

①[63]本県からは総理大臣を二人出している [17]クラスごとに PTA の役員を出してください

【21】論理の結論や根拠を明らかにして提示する。

①[13]まだ結論を出すには早すぎる [8]この問題に明確な答えを出すのはむずかしい [27]各自、意見を出してください [10]そんなことを言うなら証拠を出せ

【22】感情を表面に表す。

①[59]彼女はすぐに感情を顔に出す [60]不満を口に出す

【23】内に秘められている能力を発揮する。

①[9]さあ、元気を出して [4]あまりスピードを出すな

②[16]もっと大きな声を出しなさい

【24】体内にある液体をそとにあふれ出させる。

①[72]涙を出す [29]汗を出す

【25】ある現象や事態を発生させる。結果としてそうなる場合にもいう。

①[24]火事を出す [56]熱を出す [48]赤字を出す [2]10 人の怪我人を出した事故 [69]余りを出す [43]新記録を出した K 選手 [7]このピアノはいい音を出す

【26】それらしい雰囲気や特徴が表れるようにする。

①[15]もっと感じを出して台詞を言ってください

【27】命令依頼などの指示働きかけを行う。

①[68]問屋に注文を出す [61]部下に指示を出す [31]気象台が大雨警報を出す [62]部長がこの企画にゴー-サインを出した

②[46]生徒に宿題を出す

4.2 プロトタイプ

中心義（プロトタイプ）のカテゴリーであるとしたグループに属する回数を数えると、[6]が 15/20(75%)で最も多く、[73]が 14/20(70%)、[49]が 11/20(55%)、[18]、[35]が 10/20(50%)、[39]が 9/20(45%)と続く。このうち[6][73][18]は『大辞林』の中心義に含まれていたが、[49][35][39]は『大辞林』の中心義には含まれていなかった。[6][73][18]に共通しているのは、あるモノ 1 があるモノ 2 の内部から外部へと移動しているものである。モノ 1 は書類、牛乳、ゴミのような具体物で、モノ 2 は容器としての役割を持つ、かばん、冷蔵庫、家となっている。置かれた視点から見ると、視点が容器の外にあるものもあれば（[6][73]）、内にあるものもある（[18]）。つまり一般の日本語母語話者のプロトタイプのイメージは、視点の置き場所はさほど重要でなく、移動するモノ、容器、移動が具体的なものであるといったことである。従ってプロトタイプは、「具体物がある容器の中から外へと具体的に移動する」というイメージである（[49][35][39]は、モノ 1 が具体物ではあるが、人やその一部、動物へと

拡張している。またこのように「具体的物が内から外へと具体的移動を伴う」ような例文はこの7つだけである)。プロトタイプのイメージを図示すると図2のようになる。

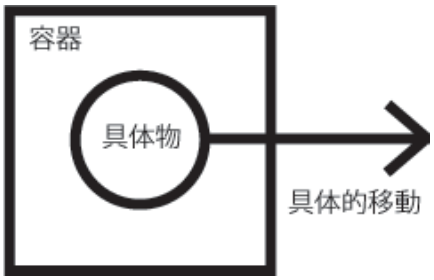

図2　「出す」のプロトタイプ

5. 考察

以上、『大辞林』と本実験の結果とは、プロトタイプ（中心義）の認定の面においては類似しているものの、カテゴリー化、すなわち語義の分け方にかなりの差異を示していることがわかった。プロトタイプの認定が類似していたのは、『大辞林』が使用頻度を重視し、最も使われているものから順に語義を配列しているためであると言える。しかしカテゴリー化は『大辞林』と実験結果とはかなり差がみられた。この理由としては以下のような要因が挙げられるであろう。

① 辞書の意味記述があくまで限られた執筆者の判断（内省）に基づいていること。

② 辞書の意味記述は専門家によるもので、深い考察がなされているのに対し、実験では一般の日本語母語話者が行っていること。一般の母語話者は「出す」の意味分類の際に、移動物が何であるかによって分類する傾向が強く、表面的である。

このように専門家の内省は一般の日本語母語話者の内省と必ずしも一致していなかった。このうちどちらが妥当であるかについて判断が難しい。なぜなら、複数の辞書を比較すれば明らかなように、専門家と言えども意味分類はかなり異なっている。つまり専門家と言えども意味のカテゴリー構造に対する見解は一致することが難しいため、必ずしもそれが妥当とは言い切れない。その点、実験では複数の被験者に意味分類を行ってもらっており、その点ではネイティブの共通の見解が反映されやすい。しかしながら、専門家に比べて意味カテゴリー構造に対する考察が表面的になりやすいという問題点がある。このため、どちらが妥当と言い切ることは容易ではなく、両者を比較検討しながら、意味カテゴリーについて再検討していく必要があると言える。また専門家を集めて同じような実験をしてもよいかもしれない。

本研究で行ったようなプロトタイプ（中心義）の認定、意味カテゴリー構造の分析を実験的に行うことで、日本語母語話者が持っている「出す」の多義構造を客観的に明らかにし、内省によるこれまでの辞書記述を再検討させるとともに、学習者にわかりやすい辞書記述に貢献できると期待される。

参考文献

今井むつみ（1993）「外国語学習者の語彙学習における問題点」『教育心理学研究』41:243-253. 日本教育心理学会.

白以然（2010）「認知意味論の観点からみる複合動詞「～出す」の意味と習得」、お茶の水女子大学大学院博士論文.

森山新（2008）『認知言語学から見た日本語格助詞の意味構造と習得』、東京：ひつじ書房.

＜Abstract＞

An experimental study on the semantic structure of the Japanese verb “dasu”

MORIYAMA, Shin (Ochanomizu University)

This paper is an experimental study on the semantic structure of the Japanese verb “dasu”, which is one of the most basic and polysemous word, to develop a Japanese language dictionary for the Japanese learners and teachers, using “multi dimensional scaling”.

The results are shown below:

1) Certification of the prototype was similar to that of the “Daijirin” dictionary. This should be because “Daijirin” focuses on frequency of the use and meanings are arranged in order, from the one most used.

2) How to categorize the meanings of the word showed significant differences with the way of “Daijirin”. This might be because the meanings are divided by introspections of few professionals in “Daijirin”.

As was done in this study, using experimental method to determine the prototype meaning or the semantic structure, we can expect to clarify the polysemous structure of “dasu” objectively, to reconsider the description of dictionaries using introspective method, and furthermore, to contribute the dictionary description which learners can understand easily.